

自己調整しながら学習を進めることができる児童の育成
—探究のプロセスを意識した自己調整シートの作成と実践を通して—

総合支援部小中学校支援課小中第2班 長期研修員 福井 祐麻

1 主題設定の理由

先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 時代が到来しつつあり、社会の変化はより加速度を増し、複雑で予測困難となってきている。このような時代を生きる子供たちは、生涯にわたって能動的に学び続けるようになるために、自らの学習の状況を把握し、主体的に学習を調整することが今まで以上に必要となるであろう。

「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」では、「自ら学習を調整しながら粘り強く学習に取り組む態度等を育成するためには、教師が支援の必要な子供により重点的な指導を行うことなどで効果的な指導を実現することや、子供一人一人の特性や学習進度、学習到達度等に応じ、指導方法・教材や学習時間等の柔軟な提供・設定を行うこと」とある。資質・能力の育成に向けて、教師は学習環境を整え、児童が自己調整しながら学習を進めていくことができるように指導していくことが求められていることが分かる。また、『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」（以下、「答申」という。）では、「学習の目標や教材について理解し、計画を立て、見通しをもって学習し、その過程や達成状況を評価して次につなげるなど、学習の進め方を自ら調整していくことができるよう、発達の段階に配慮しながら指導することが大切」とある。

研究協力校では、児童は総合的な学習の時間を通して、「自ら課題を見付け、情報を収集し、整理・分析して、まとめ・表現する」という探究のプロセスの素地を身に付けつつある。しかし、各教科の学習において、探究のプロセスを生かして自己調整することを含めた「個別最適な学び」を実現させることに難しさを感じているといった教員の声もある。

そのため、児童が学習の課題を設定し、自分で計画を立て、学習方法を考えて実践したり、振り返りをしたりする探究のプロセスを意識できる自己調整シートを作成することにより、自己調整しながら学習を進める一助になるのではないかと考えた。児童は計画を立てるにあたり、単元の目標を達成するために何を学ばよいか、教師とともに課題を考える。児童はその課題を基に、どのように学んでいけばよいか、自分で計画を立てる。学習を進めていくうちに、児童は自分が分かっていることや分かっていることを把握し、必要に応じて計画した学習の課題や学習方法を修正する。教師は、児童の取組状況や実態を自己調整シートから見取り、個に応じた効果的な指導や支援を行っていく。自己調整シートを活用していく中で、児童自身が課題を決め、自分に合った学習方法を考えながら取り組み、振り返ったりまとめたりしながら、次の学習につなげる。このような授業実践を通して、児童は自己調整しながら学習を進めることができるようになると思う。

2 研究の目的

探究のプロセスを意識した自己調整シートを活用し、授業を実践することで、児童が自己調整しながら学習を進めることができたかを検証する。

3 研究の方法

- (1) 文献を基に、視点を整理する。
- (2) 研究協力校の児童に、事前の質問紙調査を実施して、実態を把握する。
- (3) 教材研究を行い、教科における単元を構想、自己調整シートを作成し、研究協力校において検証授業を実施する。
- (4) 授業実践ごとの授業記録や自己調整シートの記述等を基に、児童が自己調整しながら学習を進めることができたかを分析する。
- (5) 事前および事後の質問紙調査結果を分析・考察し、研究の成果と課題をまとめる。

4 研究の内容

(1) 文献を基にした視点の整理

ア 自己調整しながら学習を進めるの捉え

「答申」では、「学習の目標や教材について理解し、計画を立て、見通しをもって学習し、その過程や達成状況を評価して次につなげるなど、学習の進め方を自ら調整していく」とある。本研究において、これらのことを児童が自己調整しながら学習を進める姿の参考とする。授業実践においては、児童一人一人の特性や学習進度、学習到達度などによって自己調整しながら学習を進める姿は多様と考えられる。そのため、自己調整しながら学習を進める児童の姿を授業者が想定しながら単元を構想し、授業中の児童の発言や自己調整シートへの記述などから、その姿を見取り検証する。

イ 探究のプロセスを意識した自己調整シートの捉え

「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総合的な学習の時間編」では、探究のプロセスを「①課題の設定→②情報の収集→③整理・分析→④まとめ・表現」と明示している。研究協力校では、総合的な学習の時間を月の輪学習と呼称し、探究のプロセスを「学習の進め方」と言い換え、「自分で課題を決め、考えながら取り組み、学びを分析しふり返り、次の授業につなげる」としている。本研究では探究のプロセスを「児童が学習の課題を設定し、自分で学習の計画を立て、学習方法を考えて実践したり、振り返りをしたりする」と捉え、自己調整シートを活用し、自己調整しながら学習を進めることができるようにする。

探究のプロセスを意識した自己調整シートとは、児童が各教科の学習を進めるにあたり、「学習の課題」「学習方法」「振り返り」のカードを使って学習の計画を立て、学習方法を考えて実践したり、振り返りをしたりすることで、自己調整しながら学習を進めるための一助となるものである。自己調整シートは、1人1台端末を活用して作成し、学習の課題や学習方法を加除修正したり、自分の変容を新たなカードに記録

したりすることができるようにする。そうすることで、自分の学習の状況を把握し、自己調整しながら学習を進めることができると思う。

(2) 事前質問紙調査（6月）と分析

6月に研究協力校の授業実践を行う5年生の児童30人に事前質問紙調査を行った。対象児童の変容を比較するため、10月に行う事後質問紙調査も同学級の児童を対象に行うこととした。記述が難しい児童に対しては、聞き取り調査を行った。

ア 自己調整しながら学習を進める

「①授業で、課題を解決するための計画を自分で考えていますか。」という質問では、6段階の回答の6～4の合計（以下、「肯定層」という。）が56.7%であった（図1）。また、「②授業で、失敗したりできなかったりしても、あきらめずに他の方法を考えて取り組んでいますか。」という質問では、肯定層が70%であった。このことから、研究協力校の児童は、課題を解決することに前向きであることが分かる。一方で、「③授業で、自分の課題が解決したとき、それで終わりにせず、もっといいやり方を探したり、新たな課題を見つけたりしていますか。」という質問では、肯定層が26.6%と過半数を大きく割った。また、②の質問では40%が「どちらかといえば、している」と回答していることは、①、③の質問の回答と比較してもその割合は高い。このことから、研究協力校の児童は、自信をもって自分に合った学習方法の分析をしたり振り返ったりする経験が少なく、次の学習につなげることへの意識が低くなってしまうことが考えられる。

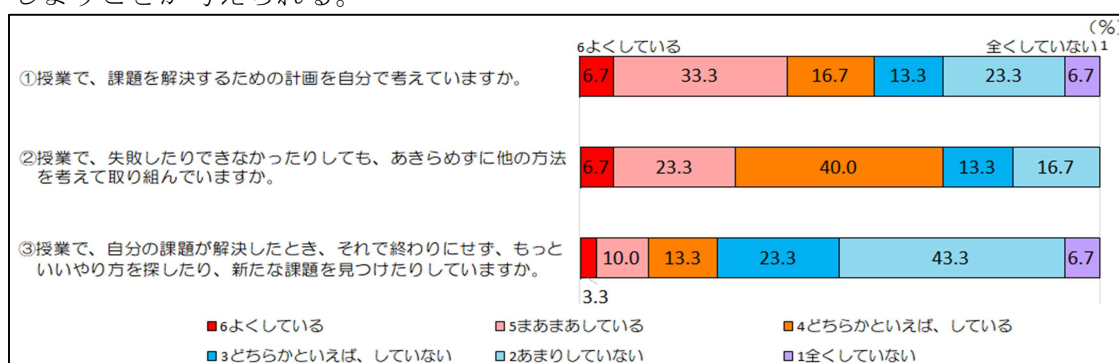


図1 事前質問紙調査の結果（自己調整の意識）[N=30]

イ 探究のプロセスを意識した自己調整シート

「月の輪学習の『自分で課題を決め、考えながら取り組み、学びを分析しふり振り返り、次の授業につなげる』という学習の進め方を、他の授業にも生かしていますか。」という質問に対して、6段階の回答の3～1の合計（以下、「否定層」という。）が50%で、探究のプロセスを生かして各教科の学習を進める意識が低いことが分かった。また、「他の授業で、月の輪学習のように自分で学習を進めると、どのようなことでなやんだりこまったりすると思いますか。」という質問では、「どういうことをすればいいのか分からなくなる」「ノートをとらないので、前の授業で何があったかなど思い出すのになやむ」などの記述が見られた。このことから、研究協力校の児童には自己調整しながら学習を進めていく上で、各教科の学習においても探究のプロセスを生

かすことができ、自分の学習の計画や学習の状況も分かるようなシートが必要であると考えた。

(3) 研究構想

ア 授業実践Ⅰ（５年生体育科）

授業実践Ⅰでは、５年生体育科「マット運動」の単元で、図２のように児童が考えるであろう学習の計画を３通り想定し、単元計画を作成した。この単元では、自己の能力に適した課題の解決の仕方や技の組み合わせ方を工夫するとともに、仲間の取組を知り、自己調整しながら学習を進めることをねらいとする。

時	「開催！黒リニピック 2024～技と技を組み合わせせて演技しよう～」の学習内容		
	技の練習をしてから組み合わせ方を考える	組み合わせ方を考えてから技の練習をする	技の練習と組み合わせ方を並行して行う
1	黒リニピック 2024 で自分が演技をするための学習計画を考える。		
2	技の練習をする。	技の組み合わせ方を調べる。	組み合わせ方を考えながら練習する。
3	できなかった技の練習をする。	技や考えた組み合わせ方の練習をする。	自分の考えた技の組み合わせ方の練習をする。
4	組み合わせ方を考えながら練習する。	できなかった技や組み合わせ方の練習をする。	演技会のリハーサルをする。
5	演技会のリハーサルをする。	演技会のリハーサルをする。	より上手な演技になるための練習をする。
6	開催！黒リニピック 2024～技と技を組み合わせせて演技しよう～の演技会をする。		

図２ ５年生体育科「開催！黒リニピック 2024～技と技を組み合わせせて演技しよう～」の単元計画

(7) 自己調整しながら学習を進める

マット運動は児童が「できる」「できない」を自覚しやすい運動であるため、苦手な児童にとっては、楽しさを感じることができなかつたり、チャレンジ精神を失ってしまったたりすることもあると考えられる。全ての児童がマット運動の楽しさや喜びに触れるためには、児童が自己の能力に適した課題を見付け、解決のために自己の能力に合った練習の場や方法、時間などを計画的に設定していくことが必要となる。また、約束を守り助け合って運動したり、仲間の考えや取組を認めたり、場や器械・器具の安全に気を配ったりすることなどができることが大切であると考え。本単元では、児童が学習の課題を設定し、自分で学習の計画を立て、自分に合った学習の課題や学習方法を考えながら取り組み、振り返ったりまとめたりしながら、次の学習につなげていくことによって、「やってみたいと思う」「分かるような気がする」「できそうな気がする」と手応えを感じながら活動するようになり、自己調整しながら学習を進めることができると考える。

(イ) 探究のプロセスを意識した自己調整シート

第１時に児童自身が自己調整シートに計画した学習の課題や学習方法を基に、単元を通して自分の学習の課題に合った練習の場や学習方法を選択して取り組んでいく。自己調整シートには５年生のマット運動の目標や高学年が取り組む基本的な技や動き、発展技の種類の一覧を載せておき、児童が必要に応じていつでも見られるようにすることで、自分の学習の状況を把握し、どのようにしていったらよいかを見つめ直すことができると考える。自己調整シートに計画した学習の課題や学習方

法を修正した場合には、その変容も新たなカードに記録できるようにする。また、自己調整シートを各時間ごとに提出することで、いつでも他者の学習方法や進捗状況を見ることができるようになる。自分とは異なる技の組み合わせ方や練習方法、技のポイントの調べ方、振り返りの仕方などを知ること、新たな学習の課題や視点を発見し、自分の学習の課題や学習方法を修正する参考になると考える。

イ 授業実践Ⅱ（５年生社会科）

授業実践Ⅱでは、同学級を対象に、５年生社会科「自然災害とともに生きる」の単元で、図３のように児童が考えるであろう学習の計画を３通り想定し、単元計画を作成した。自然災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、国土の自然災害の発生と自然条件との関連、防災や減災に向けた対策や事業の役割について、対話を通して考え、自己調整しながら学習を進めることをねらいとする。また、研究協力校の５年生は月の輪学習のテーマを「地域防災～自分たちにできること～」と設定しており、教科等横断的に資質・能力を育成していくことができる単元でもある。

時	「自然災害についてまとめたことを伝え、我が家にできる備えを家の人に提案しよう」の学習内容		
	調べながらまとめスライドを作成する	全ての項目を調べてからまとめスライドを作成する	複数項目調べてからまとめスライドを作成する
1	自然災害についてまとめたり備えを提案したりするための学習計画を考える。（調べる自然災害の決定）		
2	原因を調べてまとめる。	原因・歴史・被害を調べる。	原因・歴史・被害を調べる。
3	歴史・被害を調べてまとめる。	調べられていないことをさらに調べる。	さらに調べながら、まとめる。
4	対策を調べてまとめる。	対策・自分の備えを調べる。	対策・自分の備えを調べる。
5	自分の備えを調べてまとめる。	調べてきたことをまとめる。	さらに調べながら、まとめる。
6	自然災害についてまとめたことを伝え、我が家にできる備えを家の人に提案する内容の交流会をする。		

図３ ５年生社会科「自然災害についてまとめたことを伝え、我が家にできる備えを家の人に提案しよう」の単元計画

(7) 自己調整しながら学習を進める

本単元では、自己調整シートを活用しながら、自然災害について調べたり考えたりしたことをスライドにまとめていく。児童は、「日本ではどうして自然災害が起こるのかな」「暮らしを守るために、国はどのような対策をしているのかな」などと常に課題を意識し、自己調整しながら学習を進めることができると考える。また、いつでも他者の自己調整シートやスライドの進捗状況を見ることができるようになることで、児童は自分が必要とするタイミングで他者から情報を得ることができ、国土の自然災害の状況や自然条件との関連などについて、多角的に考えたり理解したりする姿が期待される。さらに、児童の実態に応じて、予想や振り返りを児童同士で話し合う活動を設定する。そうすることにより、自分の考えやこれからの学習の進め方、自己調整シート作成の意図など、他者に伝えることができ、自分の考えたことを確認・整理し、自己調整しながら学習を進めることにつながると考えられる。

(4) 探究のプロセスを意識した自己調整シート

授業実践Ⅱでは、自己調整シートに「予想カード」を追加する。授業の導入時に、自分の課題に対する予想を立てることで、児童が見通しをもって学習に取り組むこ

とができると考える。また、「学習の進め方確認カード」（図4）も追加する。これは、児童が必要に応じて使用できるようにすることで、「自分が今、何に困っていたのか分かった」「こうやって学習を進めていけばいいんだ」と自分の学習の状況を把握したり、どのようにして自分の学習の計画を進めていけばよいか見直したりすることが予想される。

(4) 授業実践

ア 授業実践Ⅰ（5年生体育科）

(7) 自己調整しながら学習を進める

図5は、第1時に児童が作成した単元の学習の計画である。「黒リンピック2024で自分の考えた技と技の組み合わせを演技する」という学習の目標に向けて、30人中23人は技の練習を先に行い、5人は技の組み合わせ方を先に調べ、2人は技の練習をしながら組み合わせ方を考えるという学習の計画を立てていた。

児童は、他者が作成した自己調整シートを見て、どのような学習の課題や学習方法で学習を進めていくのかを知り、自分の学習の計画の参考にしていた。

図6は、第3時の授業の様子である。児童は、自分の学習の計画に応じて個人で練習したり、ペアで技を見合ったりした。グループでは、技のポイントや組み合わせ方を調べて学習方法を調整しながら学習を進めていた。また、自分の練習する技や組み合わせに合った練習の場を選択したり設定したりする姿も見られた。

(イ) 探究のプロセスを意識した自己調整シート

図7は、児童の作成した自己調整シートである。学習を進めていくうちに、児童は自分ができる技やできない技を把握し、計画した課題や学習方法を修正し、その変容を記録していたことが分かる。また、振り返りの記述には、「側転を足を曲げず

どうやって学習を進めたら…？

- ①自分の課題をかくにんしよう！
（何を学びたい？身に付けたい？）
- ★目標のどの部分かな？目標のシートを見よう★
- ②学習方法を考えて調べよう！
（どうやって調べようかな？どうしたら課題が解決できるかな？）
- ③調べたことを整理しよう！
（調べた内容が自分で分かるかな？友達や先生に聞いてみてもいいね）
- ④自分の学習がどうだったのか、ふり返りをしよう！
 - ・調べることが終わったら、次はどうしたらいいかな？
 - ・調べてみても分からなかった…だからどうしよう？
 →調べる方法を変えてみる？分かる人に聞いてみる？
 課題がむずかしかったのか、かくにんしてみる？…
 ☆①へもどりましょう☆

図4 学習の進め方確認カード



図5 第1時に作成した自己調整シート

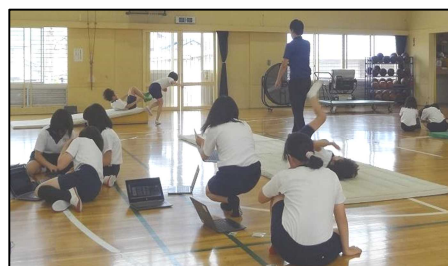


図6 自分の学習の計画に応じて活動する児童の様子

にできるようになりたい。そのために足をのばすことを意識して何回も練習したい」「次の体育では開脚前転で起き上がるために、手に力を入れて立つことに気を付けたい」など、自分の目標を達成するためにどのように学んでいけばよいかを考え、探究のプロセスを生かして学習を進める姿が見られた。

別の児童は、毎時間の振り返りとして、自分が技に取り組む姿を動画で記録し、それを自己調整シートに貼り付けていた（図8）。自分の取り組む姿を分析し、どのように練習すればよいのか考え、次時の学習につなげるだけでなく、自分が成長していく過程を視覚的に確認することができ、喜びをかみしめていた。

イ 授業実践Ⅱ（5年生社会科）

（7）自己調整しながら学習を進める

この単元では第3時に、児童が見通しをもって学習に取り組んだり、自分の学習の状況を把握したりするために、対話する場面を意図的に2回設定した。1回目は、予想カードに書き込む場面である。児童は、「〇〇市でも大きな地震が起きたと学習したから、全国でも起きていると思う」など、既習内容を基に考えたり、「前回、自分で調べてみても課題を解決できなかったから、調べ方を他の子に教えてもらいたい」などの思いを他者に伝えたりすることで、見通しをもって学習に取り組む姿が見られた。2回目は、振り返りの場面である（図9）。学習成果や困ったこと、次時にやりたいことなどについて対話することで、自分の考えたことを確認・整理したり、自分の学習の状況を把握して次の学習につなげたりするなど、探究のプロセスを生かして自己調整しながら学習を進めていた。この経験を基に、第4時以降も教師が時間を設定しなくても、必要に応じて自己調整シートを用いて自然と対話する姿が見られた。

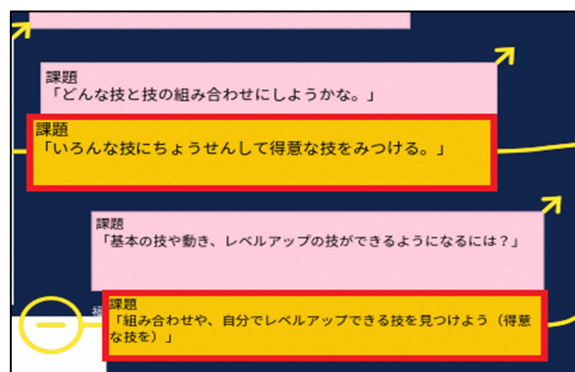


図7 変容を記録した自己調整シート



図8 動画を貼り付けた自己調整シート

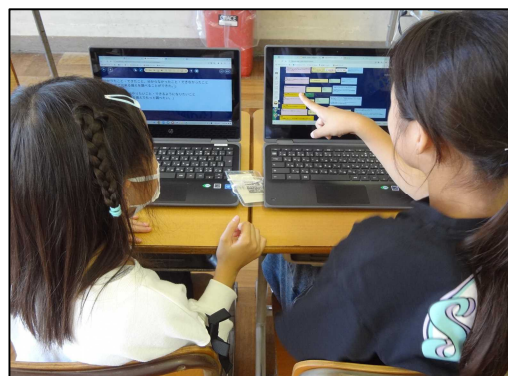


図9 自己調整シートを用いて対話する児童の様子

(4) 探究のプロセスを意識した自己調整シート

予想カードに書いたことが課題の解決につながってきたと感じた児童が、第4時の授業途中で、一度振り返りをしてから新たな課題を設定してもよいかと教員に尋ねてきた。それは、全員が同じタイミングで振り返りをするのではなく、次の学習につなげるために自分の学習進度に合わせて、振り返りをする大切さに気付く姿であった（図10）。また、予想カードを基に振り返りをする中で、次に何を学びたいのか、新たな課題を設定する姿も見られた。

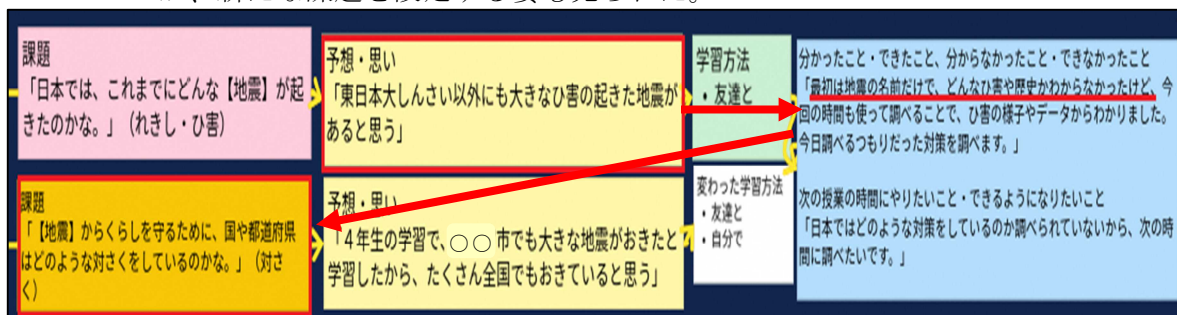


図10 授業途中に振り返りをした児童の自己調整シート

児童が学習を進める中で、自分で決めた学習方法ではうまく進められなかったり、自分の計画した内容が難しく学習が止まったりすることがあった。そのようなときに、学習の進め方確認カード（図4）を使い、児童は自分の学習の状況と照らし合わせ、どの段階で困っているのか把握して解決策を考えたり、計画を見直したりすることで、学習の進め方を再考していた。

(5) 分析と考察

ア 授業実践Ⅰ（5年生体育科）

(7) 自己調整しながら学習を進める

図11は単元終了後に行った意識調査で、「『黒リオリンピック 2024』に向けて、体育の授業でも、月の輪学習のように自分で学習を進めた感想を教えてください。」の質問に対する記述回答である。

- ・自分で全6時間の計画を立てて、それに向けて技の練習ができてよかった。
- ・初めて自分で授業を進めて、自分のやりたい技を6時間で完ぺきにしました。
- ・自分に合った組み合わせ、学習方法を考えられて良かった。
- ・自分に合った学習スピードでできるから、遅れたり早すぎないようにできる。自分で課題を決めるから、自分で変えることもできる。
- ・前の授業でできなかった技を次の授業に持ち越すことができ、自分で考えられた。

図11 自分で学習を進めたことについての感想の記述

図11の記述内容から、学習の目標に向けて、児童自身が計画を立て、自分に合った学習の課題や学習方法を考えて実践したり、振り返ったりすることで、次の学習につなげようと、自己調整しながら学習を進められたと考えられる。

(4) 探究のプロセスを意識した自己調整シート

単元終了後の意識調査では、「黒リンシートを使って体育の授業を行ったことは、自分で学習を進める上で役に立ったと思いますか。」の質問に対し、96.4%の児童

が肯定的な回答をした（黒リンシートとは、研究協力校のキャラクターを基に児童が名付けた自己調整シートの呼称である。）。表1の1から8までは、児童が自己調整しながら学習を進める中で、自己調整シートのどのようなことが役に立ったと思うかを想定した質問事項である。これに対し、児童に「（黒リンシートの）どのようなことが役に立ったと思いますか。」（複数回答）という質問をした。

表1 自己調整シートの役に立ったこと [N=28]

1	自分で課題を決め、自分に合った学習方法を考えながら取り組むことができる。	78.6%
2	自分がどのように学習を進めていったのか見直したり、計画を立て直したりできる。	60.7%
3	自分のできたこと（分かったこと）やできないこと（分らないこと）が分かりやすい。	46.4%
4	友達の黒リンシートを見たり、黒リンシートを使って一緒に考えたりすることで、自分の学習に活かすことができる。	50.0%
5	次の授業の時間にどんな学習をしようか、自分で考えることができる。	53.6%
6	自分で計画した課題や学習方法、ふり返りなどをすぐに見ることができる。	53.6%
7	「自分で課題を決め、考えながら取り組み、学びを分析しふり返り、次の授業につなげる」という学習の進め方を意識しやすい。	89.3%
8	その他	0%

表1の1「自分で課題を決め、自分に合った学習方法を考えながら取り組むことができる。」78.6%、7「『自分で課題を決め、考えながら取り組み、学びを分析しふり返り、次の授業につなげる』という学習の進め方を意識しやすい。」89.3%と数値が高いことから、特に自分に合った学習方法の選択や、振り返りを基に次の授業につなげることに有効であったと考えられる。

単元後半で、多くの児童が技の組み合わせ方を自己調整シートに記入して、考え始めていた。図12は児童の考えた技の組み合わせ方である。この児童は、技の組み合わせ方を考えるにあたり、何度も修正して自分の変容を記録していた。「なぜ何色も色を変えて技名を記入したのか」とインタビューしたところ、「最初に考えた自分の計画から変わったところを分かりやすくするためです。本当は何から変わったのか

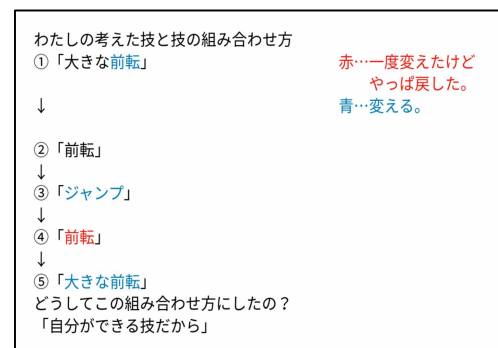


図12 児童の考えた技の組み合わせ方

残せたらよかったんですけど、それだと見づらくなるから…」と答えた。「『黒リンピック 2024』で自分の考えた技と技の組み合わせを演技する」という学習の目標に向けて、自分の考えた技の構成の変容を可視化することで、自分の学習の状況を把握し、そのためにどのようにしていったらよいのか見つめ直しながら技の練習や構成に取り組んだと考えられる。

このような児童の表れから、探究のプロセスを意識した自己調整シートを効果的に活用したことによって、児童が自己調整しながら学習を進めることにつながった

ことが考えられる。

イ 授業実践Ⅱ（５年生社会科）

(7) 自己調整しながら学習を進める

図 13 は、ある児童の日本で地震が起こる原因に関してまとめたスライドの変容である。地震の起こる原因にのみ着目して調べていたこの児童が、第 3 時の途中でスライドのまとめ方について、他者と交流した。その際、「調べた内容をそのままスライドに書いているからもう少し言葉の意味を調べた方がいいよ。内容も少し見出しからずれているかも」と他の児童から助言を受けた。そこから、自分の学習の計画を修正し、他者のスライドと比較したり本単元の目標を再度確認したりすることで、「国土の地理的環境」という視点から調べ直し、スライドの内容を修正していった。この姿から、自己調整しながら学習を進めたことで、社会科の資質・能力を身に付けていたと分かる。

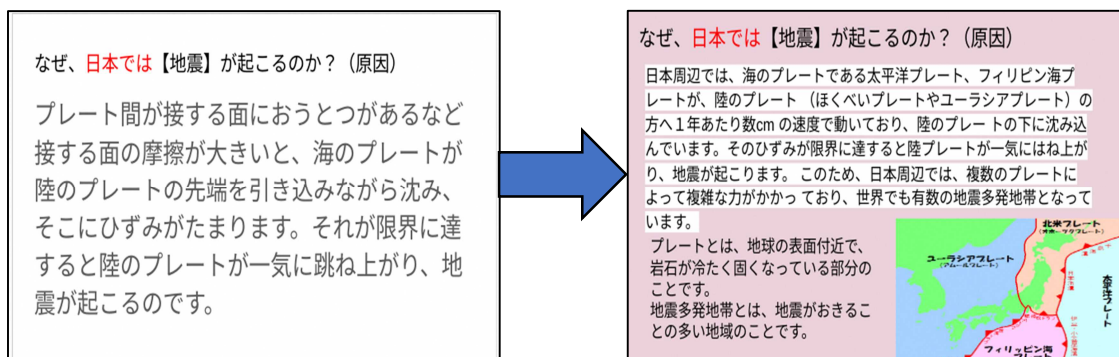


図 13 ある児童の日本で地震が起こる原因に関してまとめたスライド

図 14 は、第 3～5 時を欠席した児童が自宅で書いた振り返りカードの記述である。

次の授業の時間にやりたいこと・できるようになりたいこと

「休んでしまったことが多かったけど、お家から他の友達の黒リンシートやスライドを見ることができ、参考にしながら進めることができた。自分のペースで取り組むことができたから、次の交流会は参加したい。」

図 14 欠席した児童が自宅で書いた振り返りカードの記述

学校に登校することができないから学習を進めることができなくなるのではなく、他者の自己調整シートやスライドの進捗状況を参考にして、自分はどのようにしていったらよいのか見つめ直しながらに取り組んだと考えられる。このことから自己調整シートを使って自己調整しながら学習を進めたことは、この児童にとって価値のあるものになっていたことが分かる。

(イ) 探究のプロセスを意識した自己調整シート

単元終了後に、授業実践Ⅰと同様の意識調査を行った。「黒リンシートを使って社会科の授業を行ったことは、自分で学習を進める上で役に立ったと思いますか。」の質問に対し、100%の児童が肯定的な回答をした。図 15 は単元終了後に行った意

識調査で、「黒リンシートを使って、社会科の授業でも、月の輪学習のように自分で学習を進めた感想を教えてください。」の質問に対する記述回答である。

- ・予想もちゃんと立てることで自分がそのことについて知識があるのかがはっきりしてよかった。
- ・見直すことができるところが分かりやすいので、またこういうものをやっていきたい。
- ・最初は全部同じ課題だったけど、目標を見たり友達と話したりして調整できました。
- ・途中でも課題を変えるときは振り返りをすると次の学習につながると思った。
- ・振り返りで自分の状況を知ることができて、次の学習に生かせた。

図 15 自分で学習を進めたことについての感想の記述

図 15 の記述内容から、自己調整シートを活用し、予想を立て学習に取り組んだり、自分の学習の状況を把握して振り返ったりすることで、次の学習につなげることができたと考えられる。

図 16 は、ある児童が第 2 時終了後に提出した自分の変容を記録した自己調整シートである。第 1 時に学習の計画を立てた際、自分の関心が高い地震の歴史・被害について 4 時間掛けて調べ、まとめる計画を立てていた。

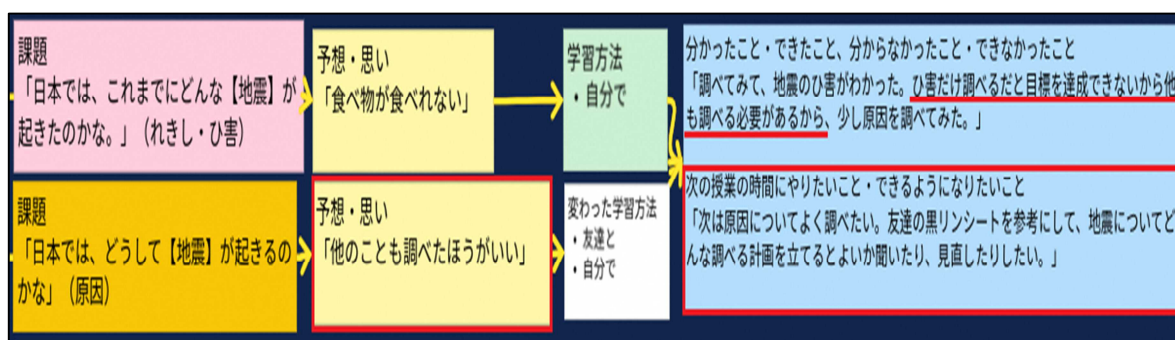


図 16 自分の変容を記録した自己調整シート

児童は、自分の調べたことが単元の目標とずれていないか確認するために、図 17 の社会科の目標カードを確認したことをきっかけに、学習の計画を修正する必要があることに気付いた。その後、他のことも調べた方がよいと考え、課題を修正し、地震の起こる原因について調べ始めたことが分かる。また、振り返りの記述から、他者の自己調整シートを参考にしたり対話をしたり

しながら、自分の学習の全体計画を見直そうとしていることが分かる。

ウ 授業実践Ⅰ・授業実践Ⅱを受けて

(7) 自己調整しながら学習を進める

図 18 は、児童の自己調整の意識に関する事前質問紙調査（6 月）と事後質問紙調査（10 月）の結果を比較したものである。「①授業で、課題を解決するための計画を自分で考えていますか。」と「②授業で、失敗したりできなかったりしても、あ

- 『自然災害についてまとめたことを伝え、
我が家にできる備えを家の人に提案しよう』
目標（身に付けたいこと）
- ①自然災害と自分たちの暮らしについて、進んで調べたり考えたりして、自然災害から自分たちの命を守るためにできる備えを考えよう。
 - ②日本で起こる自然災害の原因をや自分たちの暮らしを守るために国や県が行っている対策などをいろいろな資料から調べてスライドにまとめ、理解しよう。
 - ③日本で起こる自然災害の原因や防災・げん災に向けた対策などに着目して、考えよう。



図 17 社会科の目標カード

きらずに他の方法を考えて取り組んでいますか。」という質問では、肯定層が増加した。児童は自己調整シートを活用して、自分で学習の計画を立て、自分に合った学習方法を考えながら取り組んだり、必要に応じて計画した学習の課題や学習方法を修正したりして学習を進めていたことが分かる。また、「③授業で、自分の課題が解決したとき、それで終わりにせず、もっといいやり方を探したり、新たな課題を見つけたりしていますか。」という質問では、6月と比較すると10月は肯定層が73.4ポイント上昇し、否定層は0%に減少した。その理由としては、授業実践Ⅰ・授業実践Ⅱを通して、児童が自己調整シートを活用して学習する経験を積み重ねたことで、自信をもって自分に合った学習方法の分析をしたり振り返ったりすることができたからだと考えられる。このことから、自己調整しながら学習を進めることに効果的な取組であったと言える。

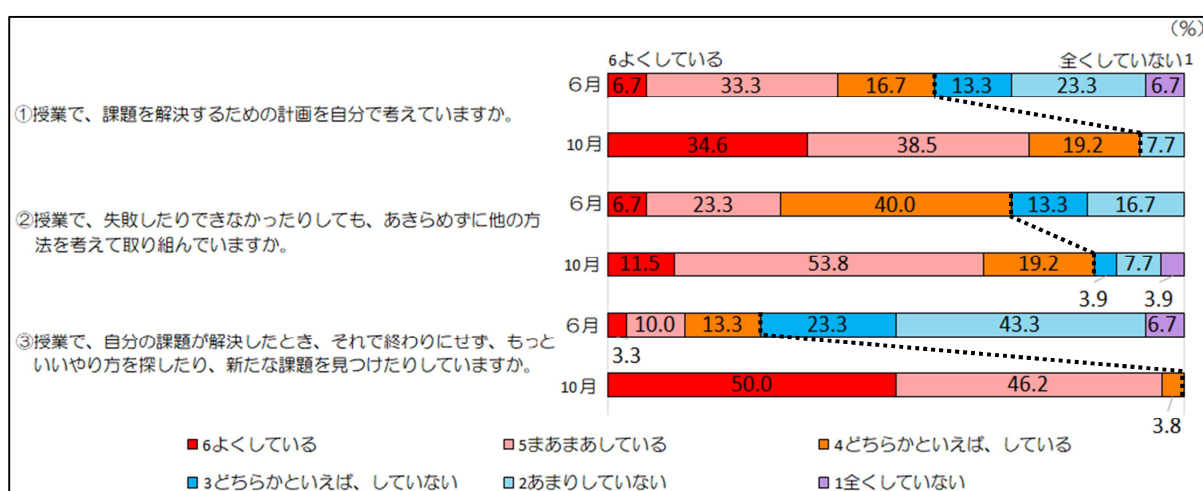


図 18 事前・事後質問紙調査の結果（自己調整の意識）〔6月 N=30 10月 N=26〕

(イ) 探究のプロセスを意識した自己調整シート

図 19 は事後質問紙調査で、「黒リンシートを他のどんなことに使ってみたいですか。」の質問に対する記述回答である。

- ・黒リンシートを図工に使ってみたいです。
- ・理科の実験で使ってみたいです。
- ・たくさんの生活や授業に生かしてみたい。
- ・習い事のピアノなど、発表会に向けて練習を計画したい。
- ・チアのトータッチがどうすれば上手にできるか、目標に向かってシートがなくても取り組んでみたい。

図 19 他の場面における自己調整シートの活用についての記述

図 19 の記述内容から、自己調整シートの活用について、教科等の学習だけでなく、日常生活においても生かせるものにしたいと考えていることが分かる。この調査結果を知った学級担任が、児童の思いを基に、図画工作科「ほり進めて刷り重ねて」の題材で自己調整シートを活用した授業を行った。図 20 は、自己調整シートを活用した授業に取り組み始めた際の学級担任の声である。

子供たちの「学びたい！」という気持ちの高まりを感じるとともに、他の教科でも黒リンシートを使って学習をしてみたいという声を直接聞いたり、アンケートに書かれていたりしたことから、私自身も自己調整シートを活用した授業ができないかと考え、構想してみました。今回行った図工の題材に合っていると思いました。（中略）第1時で全9時間のうち、何を何時間目に行うのか、黒リンシートを使って計画を立てられたのが製作に向けた支援になったと思います。題材全体の計画を立てたことで、子供たちは安心して、そしてより意欲的に製作に向かっています。

各教科の特質や子供たちの発達段階に応じて、試行錯誤していくことで、より汎用的になるかと思えます。この研究を通して、私たち〇〇小の教員も新たな視点から教材研究や単元構想を考えたり、様々な学年の先生と話したりする機会にもなりました。

図 20 自己調整シートを活用した授業に取り組み始めた際の学級担任の声

このような学級担任の表れから、探究のプロセスを意識した自己調整シートを活用し、授業を実践することは、児童が主体的に学んだり、教員の授業改善の一助となったりしていたことが分かる。

5 研究のまとめ

(1) 研究の成果

本研究では、教科（体育科、社会科）の学習において、児童が自分で学習の計画を立て、自分に合った学習方法や学習形態、資料などを選択することで、課題の解決に向けてあきらめずに取り組むことができた。さらに課題が解決したとき、それで終わりにせず、もっといいやり方を探したり、新たな課題を見つけたりすることができた（図 18）。それは、自己調整シートを活用したことで、自分の学びを振り返り、また、対話を通して自分の学習の状況を把握し、さらに自分の考えたことや変容の意図を確認・整理するという、自己調整しながら学習を進めることを経験したからである。児童は、このような経験を積み重ね、自分の目標を達成するためにどのように学んでいけばよいか、探究のプロセスを意識して自己調整しながら学習を進めることのよさを実感できた。これらのことから、探究のプロセスを意識した自己調整シートを活用して授業を行うことは、自己調整しながら学習を進めることができる児童を育成することに有効であったといえる。

(2) 今後の研究課題

本研究は、体育科と社会科におけるものであるが、自己調整しながら学習を進めることは全ての教科において重要なことである。そのため、各教科において児童が探究のプロセスを生かして、自己調整しながら学習を進める単元を構想、実践することが大切である。また、自己調整シートについて、本研究では5年生を対象に作成したが、発達段階に応じて改善していくことも必要である。将来的には児童が日常生活の様々な場面においても自己調整していけるようにすることが求められる。

参考文献

- ・文部科学省（2021）「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料」
- ・中央教育審議会（2021）「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての児童たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現～」
- ・文部科学省（2018）「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総合的な学習の時間編」